

2020 年度自己点検・評価フォーム  
(全学委員会用)

高等教育推進委員会  
(高等教育推進センター)

(高等教育推進委員会承認)

【独自基準】適した大学基準がないため、独自の点検・評価項目を設定しています。

#### 点検・評価項目

- (1) 東洋大学高等教育推進センター規程の目的に基づき、各事業の取り組みに係る計画は適切に設定されているか。また、計画を実行するための適切な体制を整備しているか。
- (2) 各事業の達成状況を踏まえ、センターの運営に係る適切性を定期的に検証し、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

#### 【評価の視点】

◎当センターの各事業の運営による各学部・研究科等の教育活動の継続的な改善、改革及び組織的な推進、支援

#### 【記載の際に考慮すべき点】

- ① 教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援
- ② FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）の研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援
- ③ 国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供
- ④ 新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発
- ⑤ 各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援

【点検・評価項目】および【評価の視点】を踏まえ、現状説明を具体的に記載してください。

#### 【現状説明】

< 評価： **A：目標が達成されている** >

高等教育推進センター（以下、センター）は、「本学の教育活動の継続的な改善、改革を組織的に推進、支援すること」を目的として、従来のFD推進センターを発展的改組して、2017年度に設置した（資料1）。

センターの事業については、センター規程第3条に以下のとおり規定している。

- (1) 教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援
- (2) FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）の研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援
- (3) 国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供
- (4) 新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発
- (5) 各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援
- (6) その他高等教育推進センターの目的達成に必要な事項

センターでは、上記の事業を推進するために、4つの部会と学生FDチームを設けており、具体的な運営に係る協議を部会ごとで行いながら、全学的な観点で事業を推進している（資料2）。

4つの部会の名称と活動内容の範囲は、以下のとおりである。

- (1) 教育方法改善部会（①授業評価アンケートの開発、分析及び活用、②学生の学修成果指標開発の支援）
- (2) FD・SD研修部会（①全学的な研修会の企画、実施、②各学部、研究科の研修の支援）
- (3) 高等教育研究部会（①国内外の高等教育の動向調査、発信、②学会、他大学との連携、情報交換）
- (4) 教育開発・改革部会（①新たな教育形態（ICT、反転授業）の研究、②アクティブラーニング、主体的学

習の促進、③学部横断型の教育プラットフォームの開発)

(5) 学生 FD チーム (①主体的な学修のための企画、②学生視点による授業の質の向上、③修学上の制度改善)

教育方法改善部会においては、授業評価アンケートの設計、実施、分析を中心に活動している。2020 年度においては、コロナ禍により、多くの授業がオンラインによる非対面授業に移行したことに伴い、設問内容を大幅に変更した。変更内容については、同部会で検討した案を高等教育推進委員会で協議のうえ、決定している(資料 3)。

また、アンケート結果の活用については、センターのスタッフによる分析を行い、学部教授会からの要望を受けて、FD 研修会として分析結果の共有を図るなど、組織的な検証活動に貢献している(資料 4)。

一方、学修成果測定指標の開発にかかる取り組みについては、2018 年 12 月にまとめられた学修成果指標検討会議報告書「学修成果測定指標の策定と「質保証」に向けて～学生の成長のために教育の質的転換をどう実現するか～」を踏まえ(資料 5)、各学部・学科の学修成果測定指標の開発と測定結果の分析等の支援を行うこととしている。2019 年度から 2020 年度にかけては、センターのスタッフを中心に、各学部・学科の学修成果測定指標の設計に係る支援を行うとともに、学修成果の測定結果を表示・分析するためのシステム開発に取り組んだ。既に、β 版のリリースを行っており、2021 年度 4 月からは本格稼働する予定である(資料 6)。

また、同システムの開発に併せて、GPA の分布状況を分析する機能を整えた。これにより、各学部・学科がディプロマ・ポリシーに即した学修成果の測定結果、入試種別ごとの GPA の分布など、学生の成績状況等を多面的に把握することが可能となり、複雑なデータ分析の作業時間を圧倒的に解消することが実現できている。

なお、同システムが開発される以前から、センターでは、GPA を中心とする学生の成績状況を検証する支援に取り組んでおり、入試種別ごとの GPA、科目群ごとの GPA など、カリキュラムや入試方式等の検証に役立てる情報を提供してきた(資料 7)。

具体的には、同センターにセンター員を置き、センター員の下で学部・学科の要望に応じたデータ検証を行い、学部・学科の教授会等に出向き、FD 研修会を行って、データ分析に係る解説を行うなど、成績評価の客観性・妥当性を担保するために機能している。

今後は、各種の検証データを適切に活用し、学部等の教育改善・改革を具体的に支援する取り組みへと活動の中心を転化させていくことが期待される。

FD・SD 研修部会においては、例年 4 月に TA/SA 研修会、7 月に新任教員 FD 研修会を企画・実施するとともに、他大学が実施する研修の周知を行うなど、本学の FD 及び SD 研修の実施に貢献している。2020 年度においては、新型コロナウイルス感染症を正しく恐れることを目的に、大学運営及び授業実施に係る FD 及び SD として、「新型コロナウイルスの特徴・現状そして展望」、「数値の正しい理解とコロナ対策」を新型コロナウイルス感染症対策委員会とオンラインにて共催した(資料 8)。

そのほか、英語で行う授業の支援として、毎年、プリティッシュカウンシルと共同で FD 研修会を実施するほか、English Support Service (ESS) と呼ばれる英語コンサルティングスタッフを配置したマンツーマンのサポートデスクを設けている(資料 9)。

高等教育研究部会においては、本学教職員向けの「高等教育推進センターニュースレター(メールマガジン)」の発行を中心に活動している。同ニュースレターは、国内外の高等教育の動向や本学の教育改善に係る取り組み

などを情報提供しており、本学の全専任教職員に隔週で配信されている。非常勤講師に向けては、ToyoNet-ACE（本学 LMS）にて、閲覧することが可能となっている。2019 年度の実績としては、合計 23 回発行し、教員の授業改善の工夫やコラム、国内外の高等教育に係る動向等の情報提供を行い、本学教職員の FD・SD 活動に大きく貢献している（資料 10）。

教育開発・改革部会においては、授業における ICT の活用研究、アクティブラーニングに係る企画・検討を活動目的としている。2020 年 7 月には、学長の命を受けた高等教育推進センター長（副学長）を座長に置く、「遠隔授業の高度化と質保証に係る将来構想検討会議」を発足し、その構成員には、同部会の委員 6 名のうち 3 名が参画することで、全学的な教育の高度化にかかわる検討に貢献している（資料 11）。

今後、同会議でまとめられた報告を踏まえ、学長の下で進められる教育改革等について、センターの立場で支援していくことが求められる。

センターの特長的な取り組みとして、学生 FD チームが挙げられる。本学の学生 FD チームについては、センター規程第 10 条に定められており、教学組織のなかに学生組織を規程上正式に位置付けている。2019 年度の高教育推進委員会の会議では、学生 FD チームから 2 回活動報告がなされ、学生の視点から見た教育に関する改善等について、委員らと協議をする場が設けられた（資料 12）。その他、「授業への声コンクール」を学生 FD チームが主体となって開催した（資料 13）。

しかしながら、学生の卒業などに伴うメンバーの入れ替えにより、活動の継続性に課題があり、2020 年 5 月現在では、活動するメンバーが僅少となっている。

直近の取り組みとして、2020 年度秋学期の授業準備にかかる取り組みとして、オンライン授業に関するポータルサイト「TOYO Online Class Portal」を開設した（資料 14）。2020 年度は、非対面（メディア）授業の実施が余儀なくされたが、教員・学生の双方に向けた必要なツール等を紹介するポータルサイトとして活用されている。2020 年 9 月 14 日の開設以降、2 週間で約 35,000 アクセスの実績がある。

同ポータルサイトについては、学生、教職員にとって、オンライン授業の質の維持・向上に活かせるよう、引き続き、ブラッシュアップを図っていく予定である。

そのほか、他大学との連携に係る取り組みとして、本学は関東圏 FD 連絡会に加盟し、青山学院大学、國學院大学、立教大学、法政大学とともに、FD 活動に係る情報共有を行っている（資料 15）。

また、年間の活動報告書として、「東洋大学 FD・SD 活動報告書」を発行しており、大学ホームページに公表している（資料 16）。同報告書には、各学部・研究科の FD・SD 活動、センターの活動、学生 FD チームの活動など網羅的に集録しており、各学部・研究科の報告書においては、PDCA サイクルを適切に循環させることを企図し、P・D・C・A の 4 項目に亘って、活動状況のみならず、次年度の発展方策を記載するよう工夫している（資料 17）。

このように、センターの活動は年々充実を図ってきた一方、課題がいくつか生じている。

FD・SD に係る取り組みについては、各学部・研究科の FD 活動の支援をしているものの、その内容は、学外の FD 研修会の紹介と事務的な手続き、各学部・研究科からの研修会実施に係る相談対応、その他前述のデータ提供に留まっている。また、全学的な FD 活動は年 1～2 回程度、FD・SD 研修部会の下で企画し実施されるものの、毎年その都度テーマ設定や企画を検討しながら実行するという状態が続いており、本学として体系性ある FD・SD プログラムの構築には至っていない。

また、授業評価アンケートの設問内容については、実施当初から変更なく進められてきた。2020年度のコロナ禍における非対面授業の実施に伴い、一時的に設問を変更したものの、今後の継続的な評価の仕組みとして、設問内容の再検討が必要である。

センターの運営を統括し、活動の検証や改善を企図する組織として、高等教育推進委員会が設置されている。同委員会には副学長を委員長（センター長）として置き、各学部・研究科から推薦された専任教員が1名ずつ参画し、構成される。また、教務部長（教員部長）、教務部事務部長、高等教育推進支援室長が加わり、授業等の運営に係る教員役職者、事務職員が参画する仕組みが構築されている。およそ年間3～4回の高等教育推進委員会を開催し、計画の策定や実施状況の把握、次年度に向けた改善対応等を検討し、事業の進捗状況を把握するとともに、センターの組織に係る適切性を検証している（資料18）。

センターの事務を所管する組織として、高等教育推進支援室が設置されており、専任職員等がセンターの活動を支援している。一方、高等教育推進支援室に属する専任職員は、学長室学長事務課、大学評価支援室の兼務となっており、さまざまな活動を網羅的に把握することが可能である一方、センターの事業改革等の推進において、人数及び専門性においても不足していることが懸念される。

その他、大学全体を見渡した際、センターは他の委員会組織と連携を図り、一体的に取り組んでいくことが求められる。具体的には、全学的なカリキュラムに係る検討及び連絡調整を行っている委員会として、全学カリキュラム委員会が設置されているが、同委員会の下では、CAP 制の適正な運用、シラバスの充実、カリキュラムマップ、科目ナンバリングの活用による学修プロセスの体系化など、カリキュラムの運営に係る全学的な検討がなされている。これらの全学カリキュラム委員会の活動は、特に2021年度カリキュラム改訂にかかる検討において中心的な役割を担っており、センターの目的及び事業と密接に関連する内容となっている。

なお、全学カリキュラム委員会規程第5条第3項に「委員会は、その目的を達成するために「東洋大学高等教育推進委員会」及びその他の委員会と連携をとるものとする。」と規定されていることから（資料19）、協議の内容や取り組みに関する連携を図り、異なる方向性とならないように適切に運営していくことが求められる。

このような全学的な委員会の運営に係る課題については、学長・副学長を中心とする教学執行部の下で最適化を含め、整理・検討していく必要がある。

【点検・評価項目】および【評価の視点】を通して、長所、問題点、将来に向けた発展方を記載してください。

#### 【取り組みの特長・長所】

- 本学教職員向けの「高等教育推進センターニュースレター（メールマガジン）」は、国内外の高等教育の動向や本学の教育改善に係る取り組みなどを情報提供しており、本学の全専任教職員に隔週で配信されている。非常勤講師に向けては、ToyoNet-ACE（本学 LMS）にて、閲覧することが可能となっている。2019 年度の績としては、合計 23 回の発行がなされ、教員の授業改善の工夫やコラム、国内外の高等教育に係る動向等の情報提供を行い、本学教職員の FD・SD 活動に大きく貢献している。
- 各学部・学科の学修成果測定指標の開発と測定結果の分析等の支援を行うこととしている。2019 年度から 2020 年度にかけては、センターのスタッフを中心に、各学部・学科の学修成果測定指標の設計に係る支援を行うとともに、学修成果の測定結果を表示・分析するためのシステム開発に取り組んだ。これにより、各学部・学科がディプロマ・ポリシーに即した学修成果の測定結果、入試種別ごとの GPA の分布など、学生の成績状況等を多面的に把握することが可能となり、複雑なデータ分析の作業時間を圧倒的に解消することが実現できている。また、学部・学科の教授会等に出向き、FD 研修会を行って、データ分析に係る解説を行うなど、成績評価の客観性・妥当性を担保するために機能している。

#### 【問題点・課題】

- センターが行う FD・SD に係る取り組みについては、各学部・研究科の FD 活動の支援をしているものの、その内容は、学外の FD 研修会の紹介と事務的な手続き、各学部・研究科からの研修会実施に係る相談対応、その他前述のデータ提供に留まっている。また、全学的な FD 活動は年 1～2 回程度、FD・SD 研修部会の下で企画し実施されるものの、本学として体系性ある FD プログラムの構築には至っていない
- 全学カリキュラム委員会との連絡調整において、大きな問題が生じてはいないが、学部・研究科にとっての教育改革を推進、支援するうえで、活動内容等が重複することもある。複数の委員会が連携することで、複層的に施策が展開されたり、十分な議論の時間を設けることに繋がったりするなどの期待がされるが、それぞれの委員会が扱う課題や協議内容にズレが生じないようにしなければならない。今後、委員会機能の整理等を含めて、検討する必要がある。
- センターの事務を所管する組織として、高等教育推進支援室が設置されており、専任職員等がセンターの活動を支援している。一方、高等教育推進支援室に属する専任職員は、学長室学長事務課、大学評価支援室の兼務となっており、さまざまな活動を網羅的に把握することが可能である一方、センターの事業改革等の推進において、人数及び専門性においても不足していることが懸念される。

#### 【将来に向けた発展方策】

- 「高等教育推進センターニュースレター（メールマガジン）」については、講読状況を把握するとともに、学内の投稿者を増加させる仕組みを講じることとしたい。具体的には、職員の投稿を企画することとしたい。
- 学修成果測定結果の把握、成績状況の分析に用いるシステムについては、教務系の職員やカリキュラムの検討に係る教員などに活用されるよう、ショートムービーを作成したり、測定結果の活用方法をレクチャーしたりするなど、具体的な支援を企画することとしたい。
- センターの FD・SD の体系化、それを推進するために必要な専門性あるスタッフの拡充については、今後のコロナ禍における ICT 活用・支援方策などと併せて、教学執行部で検討してもらうよう打診していく。具体的には、「遠隔授業の高度化と質保証に係る将来構想検討会議」の検討結果を踏まえ、全学的な将来構想の一環として、組み込んでいくことが望ましいと考えている。

【根拠資料】

- 資料 1 : 東洋大学高等教育推進センター規程
- 資料 2 : 高等教育推進センター組織図
- 資料 3 : 2020 年度第 2 回高等教育推進委員会議事録
- 資料 4 : 文学部 FD 研修会講演資料
- 資料 5 : 学修成果指標検討会議報告書「学修成果測定指標の策定と「質保証」に向けて～学生の成長のために教育の質的転換をどう実現するか～」
- 資料 6 : (20 高支発第9号) 学修成果測定指標の提出確認及び集計・表示 システムの利用について、かんたん利用ガイド
- 資料 7 : 2019 年度東洋大学 FD・SD 活動報告書 p.151
- 資料 8 : 新型コロナウイルス感染症 FD・SD 研修会のご案内、配布資料
- 資料 9 : English Support Service 周知案内
- 資料 10 : 2019 年度東洋大学 FD・SD 活動報告書 pp.160-267
- 資料 11 : 遠隔授業の高度化と質保証に係る将来構想検討会議委員名簿
- 資料 12 : 2019 年度第 3 回、第 4 回高等教育推進委員会議事録
- 資料 13 : 大学ホームページ「授業への声コンクール」受賞作品紹介  
(<https://www.toyo.ac.jp/news/academics/improve/fd/20191211/>)
- 資料 14 : 「TOYO Online Class Portal」  
(<https://sites.google.com/toyo.jp/toyo-onlineclass-portal/home>)
- 資料 15 : 関東圏 FD 連絡会協定書
- 資料 16 : 東洋大学 FD・SD 活動報告書  
(<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fdsd/publications/fd-report/>)
- 資料 17 : 2019 年度東洋大学 FD・SD 活動報告書 pp.2-136
- 資料 18 : 2019 年度第 1 ～ 4 回高等教育推進委員会議事録
- 資料 19 : 東洋大学全学カリキュラム委員会規程